

平成17年度3年生皮膚科試験 学生番号( )氏名( )

I. 静脈性皮膚潰瘍について、原因別に病態と治療法を書きなさい。

II. 褥瘡の出来やすい部位と、この疾患で大切なことを書きなさい。

III. 植皮について、採皮の方法で2つに分けて説明しなさい。

IV. 各文章を読みその疾患名を書きなさい。その疾患を別紙カラー写真(伊藤担当分)から臨床写真(ア～シ)と組織標本写真(1～9)を選んで記入しなさい。(臨床写真と組織写真は同一の患者さんのものではありません)

1.レーザー・トレラ症候群(徴候)とは、短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うもので、内蔵悪性腫瘍の合併率が高い。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

2. カサバツハ・メリット症候群とは、幼少児の巨大なこの腫瘍の腫瘍内出血により血小板が消費されDICを起こすことがある病態をいう。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

3.老人の顔面や手背などの露光部に生じる狭義前癌症でその原因は紫外線と考えられている

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

4.湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤、びらん性局面を呈する。進行すると局面内に小腫瘤がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では湿疹と誤診されることがよくある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

5.原因不明だが、紫外線、慢性刺激、慢性炎症、ウイルス、放射線などが関与し、腫瘤、潰瘍を生じる。進行すると悪臭を伴う。領域リンパ節転移もしばしば見られ、進行すると肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

6.皮膚癌の中では最も多い。約85%は顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

7.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚、粘膜、眼のほか稀に脳軟膜に生じる。腫瘍の部分的な生検や摘出は、禁忌とすべきである。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。

8.皮膚粘膜の表皮内癌で、特有の病理組織所見を有する。多発性のものではヒ素が原因とされる。内臓悪性腫瘍の合併率が高い。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は( )で、組織は( )である。